

編集後記

元旦早々から能登半島・北陸を襲った震災から約一ヶ月が経過しました。交通・インフラの回復は被害が少なかった一部の地域を除いてまだまだ進まないようで、被災者の皆様方は未だに不便な生活を強いられています。我が県からも医療関係者ばかりでなく、多くの土木建設業関係の方が現地での瓦礫撤去や仮設住宅の敷設に尽力されていますが、この時期の悪天候の影響で作業工程の目処が立たず苦勞されているとのこと。厳しい冬が続いて大変ですが、一刻も早い復旧が望まれるところです。

今月の「誌上ギャラリー」は相良先生よりお寄せいただいた“早咲きの河津桜”。ソメイヨシノとはまた趣きが異なる風合いです。満開の早咲き桜の美しさは春の訪れが待ち遠しくなる一枚です。

「論説と話題」では、第40回市民健康まつり、令和5年度全国医師会勤務医部会連絡協議会、第54回全国学校保健・学校医大会、桜島火山爆発総合防災訓練、第31回四医師会病院連絡懇談会・第28回四医師会検査センター運営協議会、鹿児島市医師会会員受賞祝賀会の模様を掲載しております。受賞された先生方、おめでとうございます。今後のご活躍を期待しております。また、今年1月に地域医療の維持と発展に資することを目的として開設した鹿児島市医師会開業・承継支援センターの業務内容も紹介しております。1/4に行われた鹿児島市医師会年始会の模様を各担当理事、各担当者から報告していただきました。ご一読下さい。

「医療トピックス」では瀧下先生から、がん化学療法におけるG-CSF製剤について、最近の持続型製剤の紹介を含めて解説していただきました。

「学術」では昨年11/9に行われた鹿児島市外科医会秋季例会症例検討会から、“興味ある症例”として4症例を供覧していただきました。また鹿児島市立病院の盛先生

からは大腸癌に対するロボット支援下手術の動向と当院の現状を手技の解説を含めて紹介していただき、鹿児島赤十字病院の瀬戸口先生から「リウマチ患者における術後せん妄リスク因子の同定」と題してご寄稿いただきました。

「随筆・その他」では栗先生から“伝統工芸・茶道具の話、その1”、小田原先生から“制度創設時に立ち返り医療事故の定義を再確認しよう(4)”の2題をご寄稿いただきました。

リレー随筆は鹿児島市立病院の下島先生から“産業医と面談をする、ということ”と題して自分の労働環境に関して面談を受けることで、改めて気づいた事、感じた事を綴っていただきました。

「特集」として昨年1年間の医師会報の誌上ギャラリーとして巻頭を飾った写真を一括掲載しております。どの作品も時候に即した力作ばかりで、ご提供いただいた鹿児島ドクターズフォトクラブの先生方への感謝とともに、今後も自慢の一枚をお寄せいただきますようお願いいたします。

「鹿市医郷壇」2号の題吟は「化粧（けしゅ）」でした。ひねりの効いた作品が多く、いつも楽しく拝見しております。会員の先生方も是非挑戦してみてください。

先月末にブルーノ・マーズのジャパントアを観に行ってきました。彼の楽曲は少々ラップ風ではありますが、80年代の洋楽ポップスに通じるメロディーラインを持っており、その時期に青春時代を過ごした我々の世代の耳にもすんなり入ってきます。そのステージは、さすがグラミー賞を17回も獲っているスーパースター。満員の東京ドームを熱狂させ、開演直後からの約2時間、年甲斐もなく立ちっぱなしで身体を揺らしてステップを踏み続けました。終演後はさすがにぐったりしましたが、どんな温泉旅行よりもリフレッシュした気分。こんな機会もたまにはいいものですね。

(編集委員 寺口 博幸)